

12人の 怒れる 男たち

TWELVE ANGRY MEN



あらすじ

貧民街で起きたある事件。「少年」が父親を飛び出しナイフで刺し殺した。階下の老人が「殺してやる！」という声を聞き、直後にアパートの階段をかけおろした少年のうしろ姿を見た。高架鉄道の向こうから婦人が現場を目撃した。犯行時刻に少年は「映画館にいた」と言ったが、彼の姿を見たものは誰もいない。12人の陪審員の誰もが評決は「5分間」で済むと思った。だから、1人の男が「せめて1時間、話し合しましょう」と言い出した時、11人の冷やかな視線がその男に集中した。この夏一番の暑さになるだろうと予報された日の午後、扇風機もガタついている殺風景な裁判所の一案で、男たちの会話がギクシャクしながら進む。完璧な“事実”が意外な側面を見せる。

【陪審員制度】とは…

市民から無作為に選ばれた12名で陪審が構成される。彼らは法廷に立会い、証人や証拠の品に接し、弁護士と検察官の弁論をきく。その後、別室にこもって陪審員だけの討論が行なわれる。有罪、無罪、いずれの場合も12対0でなければならず、意見が一致するまで討論は続く。その結論を受けて裁判官が判決を宣告する。無罪なら裁判は終了し、被告は自由の身となる。有罪の時には裁判官が刑の重さを決める。これが陪審員制度である。



東京芸術座は1959年の創立以来広く人々の魂に真実への愛と勇気と熱情が育つ舞台を創ることを目的に演劇活動を全国的に展開しています。

作／レジナルド・ローズ
訳／額田やえ子
演出／杉本孝司

スタッフ

装置／園 良昭
装置補／幡野 寛
照明／矢口雅敏
効果／馬上真勝
衣裳／東京芸術座衣裳部

キャスト

陪審員 第1号
陪審員 第2号
陪審員 第3号
陪審員 第4号
陪審員 第5号
陪審員 第6号
陪審員 第7号
陪審員 第8号
陪審員 第9号
陪審員 第10号
陪審員 第11号
陪審員 第12号
守衛
裁判長 (声)